

令和4年を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の度重なる流行の波が国内の社会経済活動に深刻な影響を及ぼし、本県でも同様に感染、収束、小康を繰り返し、なかなか先が見通せない難しい状況の中、3月には東京オリンピックの聖火リレーが本県からスタートし、金メダル獲得となった野球、ソフトボールの開幕戦が本県で行われる等うれしい話題もありました。

しかし、本県は東日本大震災及び東京電力福島原子力発電所の事故から丸10年が経過しますが、発電所立地地域の復旧・復興は道半ばであり、県内外で避難生活を送られている方々が約2万8千人となっております。これらの方々が、少しでも早く平穏な生活を取り戻すことができるよう強く願うものであります。

このような中、当協会は、本年、前半の事業として、感染対策を徹底し、総会及び清掃作業従事者研修会を実施する一方、功労者表彰式は見送ることとしました。

後半は、労働安全衛生大会・年末の懇談会は、中止しましたが、清掃作業従事者研修指導者研修会及び奉仕活動は実施しております。

さて、当協会は、公益社団法人に移行して以来、従前にも増して様々な公益活動に取り組み、県など関係団体の提案や助言を頂きながら、公共の利益の維持・向上を第一とし、ビルメンテナンス業務の社会的な責務を果たすため、各種の研修会や講習会の開催、奉仕活動など様々な活動を行ってまいりました。

本年も、公益社団法人全国ビルメンテナンス協会と連携しながら基本的な感染対策を徹底し、清掃作業従事者研修会、研修指導者講習会、貯水槽清掃作業従事者研修会、クリーンセミナーなど、コロナ渦の中でビルメンテナンス業務の品質を確保するための人材育成事業に取り組むとともに、清掃の指導に加えて勤労意識向上に寄与するとの高い評価をいただいている「支援学校の技術講習会」へ、協会の関係者がビルクリーニングの指導講師として出向く技術指導を引き続き積極的に行ってまいります。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症の収束を願うとともに、当協会は、本年5月、50周年を迎えますが、次の半世紀へ確かな歩みを進めていける1年に、また、皆様方にとりましても、この1年が良い年になりますよう祈念いたしまして、新年のあいさつといたします。

令和4年1月1日

公益社団法人福島県ビルメンテナンス協会
会長 佐藤 日出一